

赤十字

NEWS

<http://www.jrc.or.jp>

支え合って、生きる。

日本赤十字社は、赤十字の素晴らしさを知る多くの皆さまに支えられ、さまざまな活動を継続することができ、5月の赤十字運動月間を間近に控え、今号は、赤十字活動を頑張る人、その活動に支えられている人々をご紹介します。



苦しむ人びとを、救い続ける。

想像してみてください。
災害により、幸せな暮らしが一瞬にして奪われてしまった人たちのことを。
紛争や貧困により、いのちの危機に瀕している人たちのことを。

日本赤十字社は、国内救護、海外救護、防災・減災の普及啓発など
様々な活動を通して、救うことを続けています。
こうした活動はすべて、皆様からの会費と
ご寄付によって支えられています。
皆さまのあたたかい想いと共に。

苦しむ人びとを、救い続ける。

赤十字運動月間ポスター

CONTENTS

FEATURE__2・3

「赤十字とわたし」
スペシャル・エディション
赤十字と
生きる

TOPICS__4

平成31年度 予算概要

TOPICS__5

赤十字運動月間
鉄拳さん献血パラパラ漫画

AREA NEWS__6・7

茨城/秋田/静岡/愛媛/福岡/
京都/栃木/神奈川/埼玉
健康豆知識「歯周病」

WORLD NEWS__8

ネパール地震復興支援報告
1枚の写真から「ネパール」



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。





赤十字と生きる

日本赤十字社は、なぜ142年も続いているのか。そして1991の国と地域に広がる赤十字とは何なのか。その答えは、赤十字の活動に携わる人、赤十字に救われた人の「言葉」に見いだせるかもしれません。 ”赤十字とわたし”と題した新シリーズ、第1回は滋賀県の赤十字奉仕団委員長の言葉をお届けします。

no.001 | 日赤滋賀県支部 能登川赤十字奉仕団 委員長 田附弘子さん



ビーズバッジに興味を持った幼稚園児と話をしている田附さん。幼稚園での奉仕活動は年5回ほど実施されている

たづけ ひろこ
田附 弘子さん
能登川赤十字奉仕団委員長

昭和52年に能登川町福祉課係長として地域の赤十字担当となって以来、自ら「赤十字のファン」と称し、率先して赤十字運動に参加。元能登川町教育委員会教育長。現在は、赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長、東近江市地区赤十字奉仕団委員長、日赤滋賀県支部有功会副会長

“赤十字って、優しいんや” このぬくもりを地域に浸透させたい

「これ、なあに？」
幼稚園での奉仕活動中、子どもたちは私の胸元のビーズバッジに興味を持ち、のぞき込んできます。
「赤十字のマークやで。すてきやろ？」
子どもたちへの説明はそれで終わり。難しい話はしません。幼稚園での赤十字奉仕団の活動は、園の先生の補助ではなく、子どもたちの学びと育ちのお手伝いです。子どもたちは、たくさん褒められたうれしさ、何かができるようになった自信、そういう気持ちを糧にして、健やかに成長します。でもちょっとだけ、「赤十字のおばちゃん」と遊んだ楽しい思い出と共に、赤十字マークが子どもたちの記憶に残ることを期待しています。赤十字のある世界、誰もが共に助け合って生きる世の中、この子



レクリエーションの「こま回し」では園児も大興奮

たちが大人になったとき、その尊さに気づいて赤十字活動に参加してくれるようになったらうれしいです。

私たち能登川赤十字奉仕団は、地域の高齢者のための活動、防災訓練など、さまざまな活動をしています。活動があるときは家を出る前から赤十字マークの付いた奉仕団エプロンを身につけています。赤十字、活動していますよ！と、家族にも近所の方にもアピールしているのです。



老人ホーム能登川園にて。奉仕団の楽器演奏にあわせて一緒に歌を歌ったり、お茶をしながらおしゃべりしたり。「心と心が通う活動だから、楽しいです」と、奉仕団の北村繪子(いづこ)副委員長



16歳で父が急逝、高校を退学。 周囲に支えられ、生き抜いた。

赤十字担当の町の職員から 赤十字奉仕団の委員長に

昭和52年、町の職員になって6年目に、能登川町福祉課係長として日赤の会議に出席し、衝撃が走りました。赤十字という「助け合う心」、理想だけじゃなくてそれを「実践する仕組み」、これや、これが私のやるべき仕事や。一瞬で心を奪われました。その後、数多くの赤十字奉仕団の取り組みに接してきましたが、鮮明に覚えているのは、平成2年の台風19号被害です。水害によって能登川地区では深夜に1000人が避難しました。午前0時、町の職員として当時の赤十字奉仕団委員長に「避難者の朝食に炊き出しをお願いできないでしょうか」と電話したら「承知しました」と委員長は快諾。その数時間後、避難所で朝を迎えた町民の元に、奉仕団員の手作りおにぎりが2000個、次々と届けられました。これが赤十字のある世界なんだ！…震えるほど感動したのを覚えています。以来、赤十字の活動をもっと広めたくて、退職後も赤十字奉仕団活動を続けています。

委員長になって力を入れている活動に「ひとり暮らし高齢者のつどい」があります。昨年町も市のホールを借りて、能登川地区の75歳以上の独居高齢者114人をご招待。送迎からお席の案内まで、奉仕団員と青少年赤十字のメ



笑顔があふれた「ひとり暮らし高齢者のつどい」

ンバーが力を合わせ、仕出し弁当ではなく奉仕団手作りの家庭料理を振る舞い、参加者からは喜びの声を数多くいただきました。会場にいる者全員が1つの家族になれたような幸福感に包まれ、団員から「これぞ、奉仕団活動や。団員になってよかった」と言われたとき、委員長として頑張ったかいがあったと、胸がいっぱいになりました。

生きることは、支え合うこと 父の死によって得た気づき

高校1年生の夏休み、父が病に倒れて他界。母と私と幼い妹3人が遺され、長女である私が家族を養わなければと、滋賀県立彦根東高校を退学。親類の営む電器卸売店で働くことになりました。そこからはがむしゃらな日々でしたが、今振り返っても、なんと多くの方に助けられ、支えられたことか。店では、販売の仕事だけでなく、魚のさばき方や家事のコツ、礼儀作法など、生きる知恵も教わりました。そして心の支えになってくれたのが、小中学校の同級生たちと、担任の先生です。父を失った悲しみや不安を抱えた私にとって、心のよりどころでした。仕事をしながら通信教育で学びましたが、周囲の支えがあったから頑張れたのだと思います。

人は、誰かと支え合っていることを深く実感したとき、その尊さ、喜びに気づき、幸せを感じるのではないのでしょうか。そして赤十字の理念と実践があれば、支え合う幸福な社会をつくることができると私は信じています。

私は、赤十字の奉仕団員として活動することにも、赤十字が活動するための資金を集めることにも、自分が支援することにも、喜びを感じています。赤十字に関わられて本当によかった。赤十字が大好き。私の人生、赤十



能登川地区では男性の団員も増えており、現在の在籍は75人になった。「赤十字活動の素晴らしさを、東近江市全体に広めたいです」と田附さん

字で終わらせてもらえたら、こんなに幸せなことではない。周りの人の耳にタコができるくらい、そう言い続けています。

田附弘子さんってどんな人？



奥居裕子さん
能登川第二幼稚園
園長*

*取材当時
ボランティア受け入れ側

田附さんは伝説的教育長でした。給食センター勤務から始まり教育長へ。そういう方ですから、子どもの心をつかむのも上手で、園児たちと遊ぶ際には同じ目線で真剣なやり取りをされています。田附さんを含め、赤十字奉仕団の皆さんは他者の心をくむ姿勢があって、受容の精神が豊かなのだと思います。無条件に認めてくれるから子どもたちもイキイキしています。



河上勝治さん
特別養護老人ホーム
能登川園 施設長

ボランティア受け入れ側

田附さんは気配りの達人です。奉仕活動に来てくださる団体の中でも特に田附さんや赤十字の方々は「ここは直したほうがいい」など施設や職員のことにも身内のように気を配ってくれるんです。赤十字の方々、長く地域に根ざした活動をされているので入居者にも顔見知りが多く、信頼されているし、いつも笑顔で活気を届けてくれて、施設に欠かせない存在です。

約8200世帯の地区で団員は650人！「能登川赤十字奉仕団」に入団して



●大橋陽子さん(入団4年目)

「赤十字、疲れたけど楽しかった」。奉仕団員の母は、活動から家に帰ってくるたびにうれしそうに話していました。そんなに楽しいなら参加してみたい、子育てが一段落したら、そう考え続け、平成28年に入団。入ってみて分かったのは、「赤十字の活動をしていると、心が豊かになる」ということ。ちょっとしたことで誰かの役に立てる、助けになる。ボランティアをすることで自分も幸せな気持ちになれるのだと、活動を通して知りました。

●村林又蔵さん(入団2年目)

地域の自治会長をしていました。田附さんに誘われて赤十字奉仕団総会に出席し、すぐに入団を決断。もともと赤十字奉仕団には親しみがありました。能登川では、奉仕団エプロンを着た方が胸を張って闊歩しています、民家の軒先に洗濯されたエプロンが干されているのもよく目にします。活動が見え、活動する人も見えるから信頼できる。災害の多い時代、地域ぐるみの活動は大切ですし、地域の結束に必要な組織だと思っています。



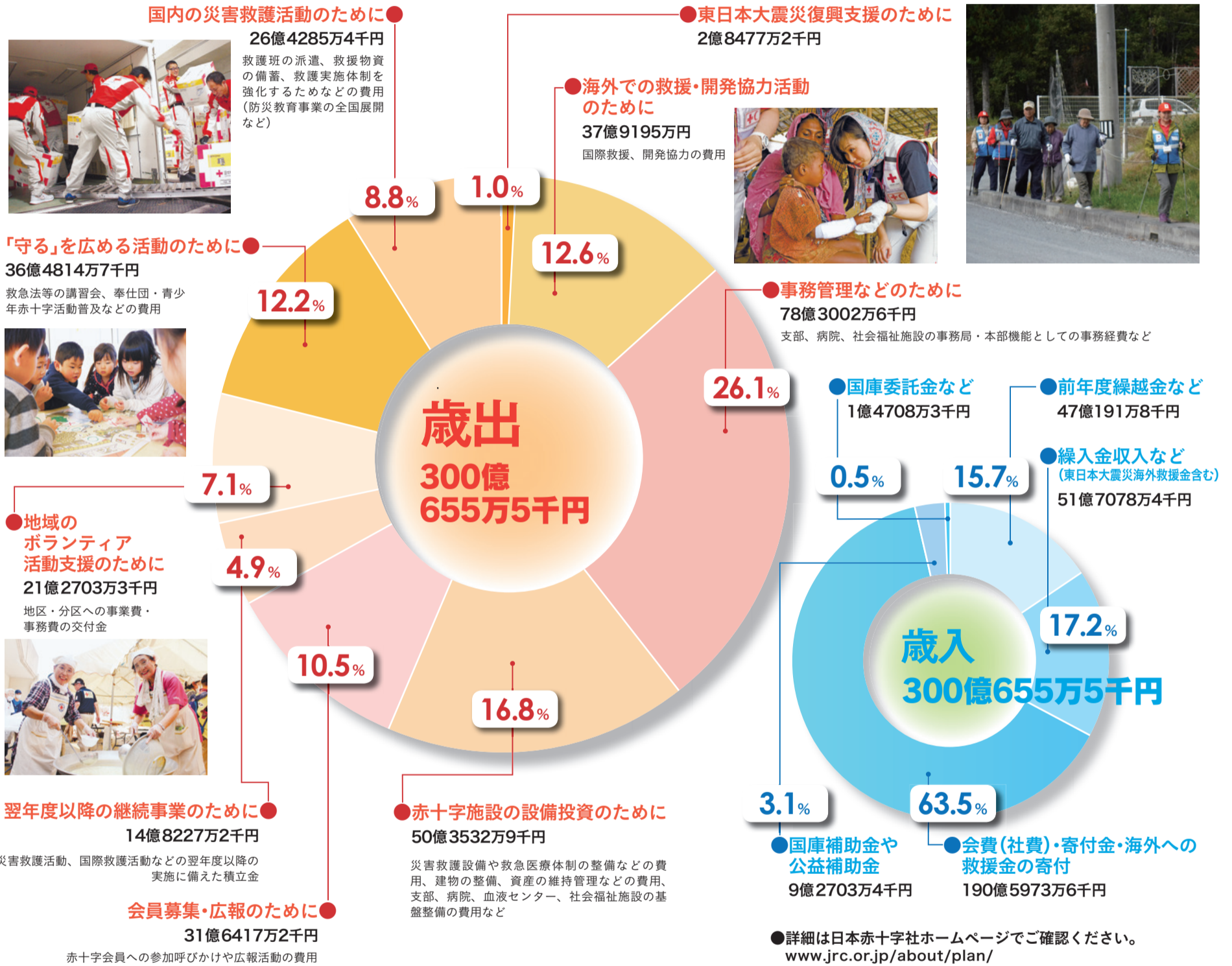
平成31年度 日本赤十字社の予算概要

「苦しんでいる人を救いたい」という理念の下、日本赤十字社は災害救護活動や国際救援活動をはじめとして、さまざまな事業を展開しています。これらの事業の財源は、それぞれの事業によって異なり、会費や寄付金を財源とする「一般会計」と各事業での収益を財源とする「特別会計」があります。



一般会計

全国の個人・法人の会費および寄付金などを主な財源とし、国際活動、災害救護、救急法などの講習会、青少年赤十字やボランティアの活動など、本社・支部の事業にかかる歳入歳出予算をまとめたものです。



特別会計

医療施設

赤十字医療施設の運営などにかかる予算をまとめたもので、診療収益を主な財源として、病院運営のための費用などに充てられます。

■収入	1兆977億8万8千円
■支出	1兆1006億3090万2千円
■差引額	-29億3081万4千円

血液事業

血液事業の運営などにかかる予算をまとめたもので、輸血用血液製剤供給収益を主な財源として、安全な血液製剤を安定的に供給するための費用などに充てられます。

■収入	1627億2041万7千円
■支出	1587億2041万7千円
■差引額	40億円

社会福祉施設

社会福祉施設の運営などにかかる予算をまとめたもので、措置費、委託費、介護保険、自立支援費、診療収入および都道府県・市町村からの補助金を主な財源として、社会福祉施設運営のための費用に充てられます。

■歳入	192億6332万9千円
■歳出	153億3726万5千円
■差引額	39億2606万4千円

注) 1. 「一般会計」の各合計額には、本社・支部・施設間の内部取引額を含んでいます 2. 「一般会計」の東日本大震災義援金にかかる歳入歳出予算は、含まれていません
3. 「特別会計」における収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額とは「収益的収入支出差引額」のことです

TOPICS 1

赤十字運動月間

2019年5月1日~31日

赤十字運動月間ポスター

苦しむ人びとを、救い続ける。

活動資金へのご協力を、よろしくお願いいたします。

赤十字運動月間 | 5.1mo~31mo | 日本赤十字運動月間 | 毎年

救うことを、つづける。 日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

あなたが支える赤十字の活動

毎年5月は「赤十字運動月間」として、赤十字の理念や活動へのご理解とご協力を呼びかけています。災害で幸せな暮らしが奪われてしまった人、紛争や貧困で命の危機にひんしている人たちが世

界中にたくさんいます。日本赤十字社はさまざまな活動を通して、困っている人や苦しんでいる人々を救う活動を続けています。赤十字の活動へのご参加、ご支援をよろしくお願いいたします。

■ コマーシャル(15秒/30秒/60秒※)動画



CM「時代を超えて救う」篇。緊迫した現場に駆けつける今昔の救護員の姿が重なり合います。いつの時代も変わらない日赤の想いを表現しました。※60秒CMはBS放送のみ

■ リーフレット



日本赤十字社の活動をわかりやすくまとめたリーフレットを作成しました。ぜひご覧ください。(こちらからPDFをダウンロードできます) ⇒⇒⇒



詳しくは公式サイトをご覧ください (5月1日 サイトオープン)

日赤 救うことを、つづける。

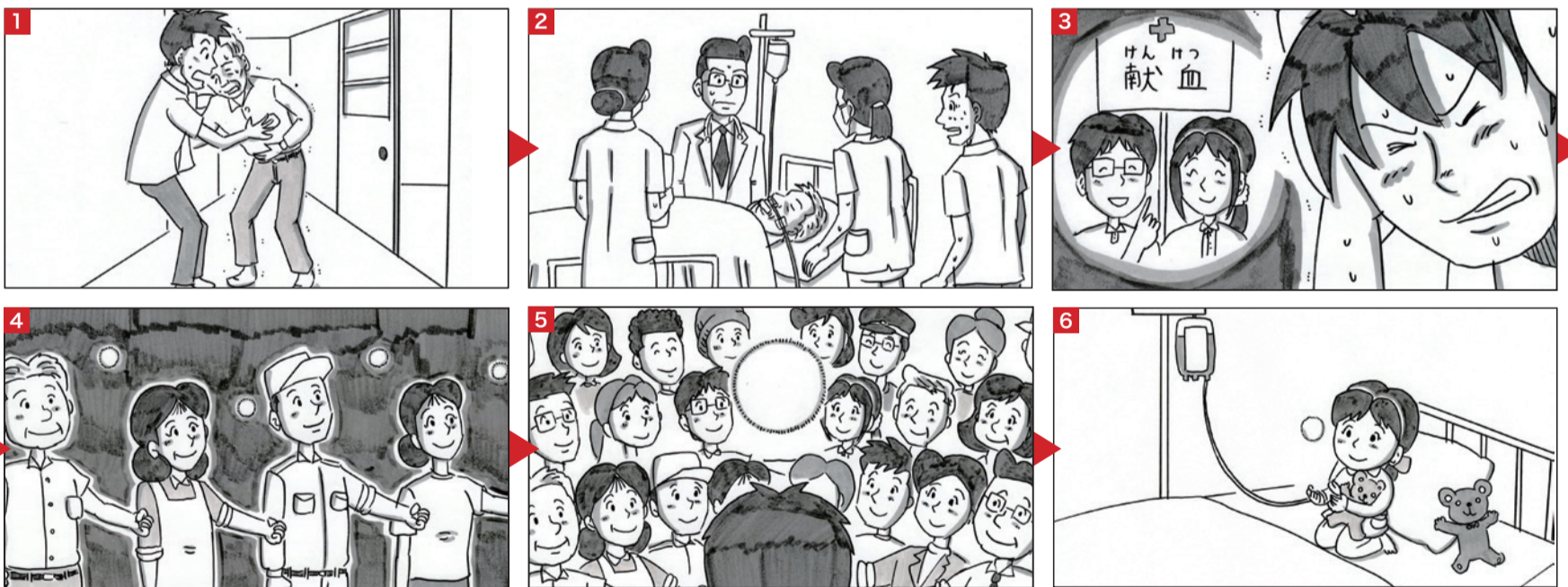
検索

jrc-tsudukeru.jp/

TOPICS 2

鉄拳さんのパラパラ漫画で献血を啓発!

感動的なパラパラ漫画で人気の鉄拳さんが、献血啓発パラパラ漫画「けんけつ」を制作しました。日本赤十字社では、献血の意義をより多くの方に知っていただき、少しでも献血を身近に感じてもらえるよう、情報を発信していきます。この漫画(動画)は日赤ホームページなどで公開中です。



STORY 町で献血している友人に遭遇した青年は、理解不足から献血を敬遠し、その場を去ります。帰宅すると、体調が悪くなった彼の父親が救急車で搬送されることに。病院で父親は輸血が必要な状態であると知り、気落ちした青年の頭に浮かんだのは、先ほどの友人の姿。さまざまな人の協力で成り立つ献血。父親が輸血で元気になったことへの御礼を伝えるため、友人の元へ向かいます。青年はその足で献血ルームへ。彼の血液も誰かの役に立っているはず。

【鉄拳さんからのコメント】



僕にもできることはある。献血に対して少しでもお役に立てるのであれば、協力したいと思いました。これまで献血経験が無く、街中で献血を呼びかけている人を見ても、少し怖くてはじめての一步が踏み出せませんでした。でも献血してみたら怖いことなんて一つも無いことがわかりました。献血の大切さ、献血することの意味、人間を助けるのは人間しかないことをなるべく分かりやすく描いたので、たくさんの人に見てもらえると嬉しいです。



このバナーが目印



詳しくは日赤ホームページをご覧ください

鉄拳 献血啓発パラパラ漫画

検索

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

静岡県 海難事故や原子力災害… 多様な災害に備えて訓練を継続

日赤静岡県支部はさまざまな災害救護訓練を通して、災害対応能力の向上と関係機関との連携強化に努めています。2月5日に静岡市清水港で行われた、旅客船の事故を想定した海難救助訓練に参加。また、2月6日に静岡県全域で実施された原子力防災訓練では、行政や自衛隊などと協働。住民や車両の放射線量測定、簡易除染などにあたりました。



海難救助訓練では救護班が清水海上保安部と連携して傷病者に対応

愛媛県 いつまでも赤十字精神を忘れずに 125年の歴史を締めくくる卒業式

3月1日、今年度で閉校となる松山赤十字看護専門学校卒業式が行われ、最後の卒業生29人が巣立っていきました。同校は明治27年に日本赤十字社愛媛支部看護婦養成所として開設。横田学校長は「学校は閉校となりますが、人に寄り添うという赤十字精神を持ち続け、看護に研さんして欲しい」と、卒業生へ言葉を贈りました。



125年の歴史を築き上げた同校は総勢2868人の卒業生を輩出

福岡県 福岡からBangladeshへ！ 支援の気持ちを音楽に乗せて

日赤福岡県支部は、創設130周年を記念する国際救援チャリティコンサートを2月20日に開催しました。このコンサートは、福岡赤十字病院の看護師3人をBangladeshへ派遣した経歴を踏まえて、支援の輪をさらに広げるべく企画されたものです。コンサートチケットの販売により集まったBangladesh南部避難民救済金の贈呈式も行われました。



ステージでは九州交響楽団と森山良子さんが名曲の数々を披露

神奈川県 講習をきっかけに生まれる「絆」 地域ぐるみの高齢者支援

日赤神奈川県支部は、健康生活支援の地域講習を年間を通して実施。中でも横須賀市内では36回、約1100人が参加しました。この取り組みでは地域の人々のつながりをなによりも重視。地域住民が集まりやすい町内会館などを会場に、誰でも気軽に参加できて参加者同士が親しくなれる雰囲気作りを心がけました。



「声を掛け合うなど、顔が見える関係が築けました」と指導員

埼玉県 災害時、避難所での生活が困難な「要介護」の方を受け入れます

日赤埼玉県支部の特別養護老人ホーム「小川ひなた荘」と小川町が、災害発生時の福祉避難所の設置運営について協定を締結しました。災害時には平時以上に、高齢者や障がい者、乳幼児などへのサポートを必要とする場面が想定されます。今回の協定により、小川ひなた荘がそうした方々を受け入れる「福祉避難所」の役割を担うことになります。



30年以上もの間、心の通い合う介護を実践している小川ひなた荘

常任理事会開催報告

平成31年3月19日、本社において平成30年度第11回の常任理事会が開催されました。
1 規則の改正について (日本赤十字社病院建物建設等資金規程、日本赤十字社医療事業資金規程)
2 理事会に付議する事項について (外部監査の導入等にかかる関係規則の改正、山口赤十字病院の増改築にかかる資金の借入)
審議の結果、規則の改正については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項については、原案のとおり、平成31年3月20日開催の理事会に付議することが了承されました。また、「日本赤十字社 長期ビジョン2020-2028」(案)、前橋赤十字病院の移転新築および赤十字病院の経営改善ならびに予算の補正にかかる2月および3月分の社長専決事項について、それぞれ報告しました。

理事会開催報告

平成31年3月20日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成30年度3回目の理事会が開催されました。審議結果は下記のとおりです。

- 1 規則の改正について (外部監査の導入等にかかる関係規則)
2 資金の借入について (山口赤十字病院の増改築にかかる資金の借入)
3 第93回代議員会に付議する事項について (役員を選出、平成31年度事業計画および収支予算)
審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。
また、社長委任事項の決定状況について、報告しました。
また、常任理事会の理事の互選が行われ、池上清子、岩沙弘道、三浦宏、町田錦一郎、清川忠、北村又郎、香川亮平、宮脇隆俊の各氏が選出されました。

代議員会審議結果公告

平成31年3月20日、新霞が関ビル「全社協・澁尾ホール」において開催した第93回代議員会の審議結果は下記のとおりです。

- 平成31年4月1日 日本赤十字社 記
第1号議案 役員を選出について
理事33名および監事1名が次のとおり選出されました。
理事 池上清子 理事 岩沙弘道 理事 川西智子
理事 栗田幸雄 理事 川島周 理事 高橋博美
理事 三浦宏 理事 加藤秀郎 理事 清野伸昭
理事 小櫻輝 理事 鈴木誠一 理事 相川宗一
理事 丸山浩一 理事 神谷光信 理事 久和進
理事 清川忠 理事 金丸康信 理事 牛場まり子
理事 今井民雄 理事 武田政義 理事 櫻本武利
理事 中島博 理事 平松恵一 理事 藤原幸子
理事 香川亮平 理事 松村隆 理事 宮脇隆俊
理事 田代知代 理事 岩元誠一 理事 比嘉幹郎
理事 荒牧智之 理事 鈴木暲三弘 理事 杉原正晴
監事 荻田伍

- 第2号議案 平成31年度事業計画について
原案のとおり議決されました。
第3号議案 平成31年度収支予算について
原案のとおり議決されました。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。
①お名前(匿名をご希望の方は、その旨をご記入ください)
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤赤十字NEWS 4月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
⑥4月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(3つまで)
A.表紙 B.赤十字と生きる C.予算概要
D.赤十字運動月間 E.鉄拳バラバラ漫画
F.エリアニュース G.健康豆知識 H.プレゼント
I.ワールドニュース J.1枚の写真から
⑦つまらなかった記事は上記の中でどれですか?
⑧赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

4月26日(金)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

「知って良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった! 健康豆知識



放置しないで! 歯茎にダメージを与える「歯周病」

長岡赤十字病院 歯科口腔外科部長 飯田明彦 (いいたあきひこ) 医師
新潟県長岡市千秋二丁目297番地 | TEL 0258-28-3600

歯磨きをしたときに歯茎から血が出たり、歯がグラついていたら歯周病を疑ってください。虫歯と歯周病は、どちらも歯にたまった汚れとともに繁殖した細菌が引き起こす疾患です。また細菌感染症のため、歯周病ではストレスや疲労などによる免疫力の低下で悪化することもあります。ただし虫歯と歯周病では原因となる菌の種類が異なるため、虫歯を治療しただけでは歯周病は防げません。虫歯菌が歯そのものを溶かすのに対して、歯周病菌は歯茎にダメージを与え、放置しておくことや歯を支える骨の組織を破壊します。また虫歯は比較的早期の段階から痛みなどを感じますが、歯周病はある程度

進行しないと自覚症状が現れません。そのため気付いたときには手遅れになってしまうことも。高齢者が歯を失う最も多い原因も歯周病です。たとえ症状がなくても3カ月〜半年ごとを目安に、歯科医院での定期検診と歯石除去を習慣づけましょう。歯周病の予防には毎日の歯磨きが大切です。歯と歯茎の間に歯ブラシを当て、小刻みに振動させるようにブラッシングするのがコツ。また、歯間ブラシやデンタルフロスも有効です。ただし誤った磨き方をしているとかえって歯茎を傷めてしまうこともあるので、歯科医院で歯磨きの指導を受けることをおすすめします。



毎日の歯磨きに歯間ブラシ、デンタルフロスをプラスしてしっかり歯周病を予防しましょう。

国内義援金、受け付け中

日本各地で起きた災害で被災された方々を支援するため、日本赤十字社は下記のとおり義援金を受け付けています。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

- 平成30年 北海道胆振東部地震災害 2019年9月30日(月)まで
- 平成30年7月豪雨災害 2019年6月30日(日)まで
- 平成29年7月5日からの大雨災害 2020年3月31日(火)まで
- 平成28年熊本地震災害 2020年3月31日(火)まで
- 東日本大震災 2020年3月31日(火)まで



郵便振替や銀行振込などでご協力いただけます。詳細は、日赤ホームページをご確認ください。

日本赤十字社 国内義援金・海外救援金への寄付 検索
http://www.jrc.or.jp/contribute/help/

present プレゼント

ハートラちゃんの本
ボールペンと
クリアファイル
のセット

10
名さまに



書類やプリント整理にピッタリなクリアファイルと、サラサラの書き心地がうれしいボールペンをセットでプレゼントします。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 4月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 4月号プレゼント係」)
4月26日(金)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

WORLD NEWS

ネパール地震復興支援報告
【ネパール】

ネパール



子どもたちにも手が届きやすいよう、低い位置に蛇口を設置。安全に水が使えるようになりました

ネパール地震から4年… 被災地に“水”がもたらす潤いと希望

死者8856人、被災者およそ560万人という大きな被害を出したネパール地震。
発生から丸4年がたとうとする今もなお、日赤はさまざまな形で支援を続けています。

山岳地帯の悪路を乗り越えて支援を継続
安全で便利な水くみ場とトイレなどを建設中

2015年4月25日に発生したネパール地震。最も大きな被害を受けた地域のひとつであるシンドバルチョーク郡で、日赤は復興支援を続けています。同郡は首都カトマンズから北東へ約30km。日赤ネパール代表部の五十嵐和代は、復興支援事業の難しさを次のように語ります。「道路事情は悪く、わずか数十キロの道のりを車で移動するだけでも1日近くかかります。雨期になると無舗装の道路はぬかるみ、地滑りも発生するため車が通れなくなり、事業が止まることもしばしばです」。

そのような厳しい環境の中でも、事業の成果が生まれつつあります。その一例が被災した村々での飲料水供給施設(水くみ場)の整備です。もともと被災地の周辺では、山からの湧き水など水資源は豊富でしたが、水くみ場の数は不足していました。また、地震によって使えなくなった水くみ場もありました。こうした状況を改善すべく、日赤とネパール赤十字社の復興支援事業では、各地に水くみ場

を建設してきました。

また、住民が日常的に使用するトイレの再建にも力を入れています。しかし山岳地帯でのトイレ再建には困難も多く、「やっと手配できたトラックでガタガタ道を何時間もかけて資材を運んだ揚げ句、わらで包まれた陶器製の便器が割れてしまう」(前出・五十嵐)ということも。

復興支援事業ではより良い生活を目指す「Build Back Better」の理念の下、発災以前よりも安全で便利な水くみ場やトイレの設置を進めてきました。以前は20世帯にたった1つの水くみ場しかなかった村も、今では3世帯に1つの割合で新しい水くみ場を利用できるようになりました。遠くにあったトイレを自宅横に再建し、暮らしが便利になった家庭もあります。

水とトイレの整備で生活習慣も変化
被災地の暮らしの質が大きく向上

水くみ場やトイレの整備は、地域の人々の生活習慣にも好影響を与えています。水くみを待つ行列がなくなったので気軽に水浴びや

手洗いをすることが可能になり、衛生的な生活を営めるようになりました。安定供給される水を野菜の栽培に活用して食料にしたり、その野菜を市場で販売して収入を増やす取り組みを始めた家庭もあります。また、震災直後には数多く見られた木の棒とビニールシートだけの仮設トイレは、今ではすっかり姿を消しました。新しい水くみ場とトイレは、被災地の暮らしに潤いと希望をもたらしているのです。

こうした水の供給や衛生設備の整備と並行して、地域の防災拠点にもなる学校の再建や、ネパール赤十字社が実施する血液事業への支援なども行われています。日赤は今後も同社と連携しながら、地域の住民に寄り添う復興支援事業を続けていきます。



ネパール赤十字社と日赤の支援で新たに設置された貯水槽



ヤギ1頭で、およそ1万5千ネパール・ルピーの収入が得られます

1枚の写真から
picture tells stories

ヤギの飼育で5人家族の生活を立て直す

2015年4月のネパール地震で被災した、タンパルコット村に住むカンチ・パクレイさん。彼女は地震により家や家畜など多くのものを失いました。しかし日赤とネパール赤十字社から4万ネパール・ルピー(およそ4万円)の資金援助を受け、3頭のヤギを購入。

以前はウシを飼育していたパクレイさんですが、赤十字の生計支援研修を受けて比較的容易に収入増が見込めるヤギの飼育を始めてみることにしたのです。その結果、ヤギを繁殖させ、新たな収入を得ることに成功。資金だけでなく知識やノウハウの共有という支援が実を結び、5人家族の生活を立て直す見込みが立ちました。「新たな収入創出の機会をくれた日赤とネパール赤十字社の支援に感謝しています」と、パクレイさんは笑顔で語ってくれました。

語り 日赤ネパール代表部 首席代表 五十嵐 和代